

社会・文化・教育



キーワード：高齢者就労、社会参加、老年学

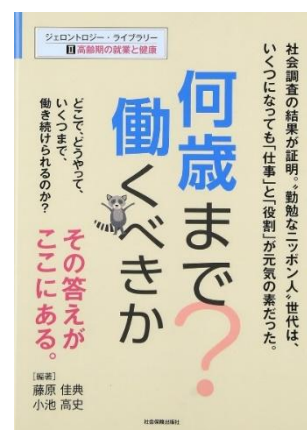
高齢者就労促進にむけた政策提案と評価

現代社会学部 現代社会学科 准教授
小池 高史 KOIKE Takashi

研究の内容

65歳をこえて働き続ける高齢者就労を促進していくことが社会として求められているなか、高齢者の就労働機や雇用側の企業の意識についての研究に取り組んでいます。

社会調査の回答データを分析し、これまでに①企業の代表者の年齢が60歳以上の企業で高齢者を雇用しやすくなることから、求職者が「高齢である」ことだけでなく、代表者よりも「年上である」ことも高齢者雇用の阻害要因になっていること、②就労継続を希望する高齢者のなかでも、これまでと同じ仕事であれば続けたいのか、違う仕事でも続けたいのかが分かれ、これまでに従事していた業種や職種によって希望の内容が異なること、③高齢者が働きたい理由の違いによっても、今後の業種や職種についての希望に違いがみられ、生きがいや社会貢献・社会とのつながりを働く理由にしている人ほど、これまでと同じ業種で働きたいという希望をもっており、生きがいを働く理由にしている人ほど、同じ職種で働きたいという希望をもっていることを明らかにしてきました。



拙編著『何歳まで働くべきか？ 高齢期の就業と健康』
社会保険出版社 (2016)

産学連携・社会連携へのアピールポイント

2019年から2020年にかけて、福岡市のシニア活躍応援プロジェクトの会議委員（副委員長）として、福岡市の高齢者就労促進にむけた政策提案に協力しました。そこでは、市民向け、企業向けの質問紙調査の設計・分析にくわえ、高齢者向けのインターンシップやシニア・ハローワークの実施を提案しました。

研究者総覧（小池 高史）

URL : https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/200000680_ja.html

